

「デジタルアーカイブの紹介」 展示資料 その2

平成31年 6月 5日

No.	書名	著者	出版年	備考	請求記号
7	南総郡郷考 2巻 上巻	鳥海 酔車／著	1847 (弘化4)序	鳥海酔車撰の上総郡郷志で、各郡郷の沿革を略説し酔車は寛政12年望陀郡長須賀村(現木更津市)に生れ、18歳で里生となった。昌平校に学び、国学や俳諧に親しみ、家塾を開いて子弟を教育した。	C22/TO68/1-1
8	房総醫家人名録	英齋河崎吉／輯録	1825 (文政8)序	跋文には英齋河崎吉(河崎英齋)は水戸の人と書かれている。校訂の大原貫魚は南総の人。本書には市原・長柄・山辺・武射・埴生・夷隅・望陀・周准・天明・長狭の順に医家の科名と氏名が列挙されている。	C4909/KA97/1
9	産科指南 2巻 上	大牧 周西／著	1826 (文政9)序	著者大牧周西は周准郡周西、現君津市坂田の農家で宝暦7年(1757)に生まれた。賀川玄悦を祖とする賀川流の産科とくに『産論』によって術を得、又杉田玄白の『解体新書』で西洋の解剖学的な裏付をし、30年にわたって数千人のお産を手がけた。妊娠胎位説から横産、附録三条に及び木版の精細な図版が入っている。	C495/O61/1
10	農業要集	宮負 定雄／記	1826 (文政9)巻末	宮負定雄は1797(寛政9)年下総国松沢村(現旭市(旧干潟町))に生まれ。国学者。父定賢は平田篤胤の門人。農業書のほかに、『下総名勝図絵』、安政大地震(安政元(1854))の際の和歌山での見聞記『地震道中記』などを著した。	C61/M81/1
11	小金原御狩之記図会(写)	源季寛／著 藤原清繁／写	享和2 (1802)	寛政7年3月5日、小金原(現松戸市)で徳川家斉により鹿狩が催された。その当日の様子が彩色で描かれている。	C6402K/MI38/1

※千葉県立図書館ホームページより閲覧することができます。<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/nanohana/index.html>